

地元の隠れた名物や催しなどをご紹介！

＊ 咲き誇る皇帝ヒマワリ (「内ファーム」伊集院町古城)

高さ3mを超える皇帝ヒマワリが咲き誇っています。場所は伊集院町古城の市道沿いにある牧場「内ファーム」の空き地で広さは約600坪、撮影時期は26年11月21日。6月に植えた120本が徐々に広がり空き地を埋めたとのこと。開花期は晩秋から降霜までで11月下旬までは見られそう。今年も楽しめそうです。



＊ 第32回伊集院 梅マラソンジョギング大会

毎年恒例の梅マラソンジョギング大会が26年12月14日、日置市伊集院総合運動公園陸上競技場で開催され市内外から幅広い年代層の参加者が各種目ごとにスタートしてジョギングを楽しみました。また同会場では伊集院フェスティバルも同時開催され前日も含め約3万人が来場。鹿児島県環境保全協会では合併処理浄化槽のパネル展示などの広報活動を行いました。



＊ これは珍しい緑竹です(郡山町)

郡山支所前の道路沿いにある郡山齊様宅の敷地に、昨年9月頃から2本の竹が突然伸びだし、12月には高さが約9mになりました。今年1月になっても竹の皮はそのまま枝がありません。調べたところ台湾では「タケノコの王様」と呼ばれ、日本では高級食材として有名な緑竹でした。緑竹は亜熱帯性のため寒さに弱く日本で栽培に成功している地域は日置市日吉町など一部とのことです。



今年の書初め

弊社では、毎年仕事始めの日に社員全員が今年1年の抱負や目標を題に書初めをしています。「題」と「趣旨」(業務日報から)を紹介させていただきます。



「健康」 昨年から体調を崩しているので早く元気になるように

「察知」 相手の話を最後まで聞きどうしてほしいのかをよく聞き、相手の心を察知して対応する

「伝」 自分の気持ちを伝え、相手の気持ちを伝えてもらう(意思疎通)

「慎重」 事務処理のミスがないよう今年石橋を5回叩くくらい慎重に

「痛」 昨年末から痛風が出たので仕事のためにも治したい

「心」 ひとつひとつ落ち着いて物事を進めていく



「安」 安全運転、安全作業に気を付ける

「変化」 仕事、家、プライベートなどで何か変化のある年にしたい

「新」 今年は会社の組織・人事体制が変わる予定なので、新鮮な気持ちで取り組みたい

「期成」 公私ともに物事を必ず成就できるようにする

「冷暖自知」 器の水の冷暖は触ってみて分かる、とにかく動きなさいとの禅の言葉、今年は実践の年に!

「変革」 今年は自分自身を変え前向きに行動する年にする

「積極」 入社2年目なのでもっと積極的に行動したい

「道」 皆さんの手本となり道筋を立てられる様努める

「前」 今年は厄・前厄なので特に健康に気を付ける

「気」 今年を常に気(元氣、勇氣、運氣)を持って仕事、家庭、趣味に取り組みたい

新入社員「菌田・34歳」です

住まい:石谷町 家族:妻、娘5才・3才
趣味:日曜大工、社会人サッカー
書初め:「向上心」すべての業務に前向き積極的に取り組みスキルアップを目指す



かたいもんそ

第42号



平成15年5月創刊 「かたいもんそ」は、<http://bunka-inc.jp>にてご覧いただけます。42号は平成27年2月1日より配布開始しています。



社長:土屋 愛九

平成27年もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。毎年恒例の書初め。仕事始めの日にしたためる今年一年の姿勢です。私は「良知」ということを判断基準に、「致良知」を行動基準にできればいいなと考えました。良知という言葉を私なりに定義すると、良知とは「正見、正思、正語を心掛け、人が本来持っている善悪を誤らない正しい心であり、前向きに進化発展させる心・思いのこと」であると考えています。なかなかできることではないですが、企業活動のみならず生活においても、まず「自己中心の偏った見方をせず」、「自己中心的な邪の気持ちを捨て正しく考え」、「うそ、二枚舌、悪口、大げさな不正確な言葉のない人を幸せにするものの言い方」を心掛けて社員、お客さまや地域に貢献していきたいという思いを込めて書かせていただきました。

鹿児島市管工事組合 ~おはら祭り前道清掃ボランティア~

26年11月1日、恒例のおはら祭り前道清掃ボランティアに参加しました。鹿児島市を代表するお祭りに参加・見物の皆様が気持ちよく参加できるように毎年行われているものです。



清掃技術社内現場研修

最近の新型浄化槽は、機種ごとに構造が異なり複雑になっていることから、26年9月30日、適正な清掃技術を習得するための現場研修を行いました。平川町のお客様宅の浄化槽(クボタKZ型)について、社員同士で意見交換しながら作業上の手順及び注意点を確認しました。



環境整備事業協同組合 ~浄化槽維持管理技術研修会~

26年11月14日、鹿児島市内で県内浄化槽管理士約330名(弊社9名)が参加して、浄化槽維持管理技術研修会が開かれました。①サカマキ貝駆除について②ハイスピンポンプの故障原因と改善方法③水質悪化施設の原因究明調査④小型浄化槽の保守点検・水質管理、の研究発表等があり参加者は真剣に聞き入っていました。



環境保全協会 日置支部 ~施工部・管理部合同研修会~

26年11月18日、日置市伊集院町で合同研修会が開催されました。4月1日から改正施行された浄化槽設置補助金の状況について日置市担当職員から「当初予定基数の160基に対し現在202基を整備、さらに追加基数70基の国庫補助を要望中、大幅な設置基数増加は支部の皆様方の協力のおかげ、今後も生活排水対策の推進に一層の協力をお願いしたい」と説明がありました。



環境保全協会 鹿児島市支部 ~管理部会研修会~

26年11月20日、鹿児島市内で開催された研修会では①浄化槽メーカー(フジクリーン工業)から「CFII型の維持管理のポイント」②鹿児島県環境検査センターから「法定検査から見た維持管理の注意点」についてそれぞれ説明がありました。現場で直面している状況について多くの質問があり、研修会終了後も会場内で熱心に意見交換が行われました。



ふるさとの水辺を守る主役は浄化槽 ～平成25年度末・汚水処理人口普及率について～

環境省、国土交通省、農林水産省は、平成25年度末の全国の汚水処理人口普及率をとりまとめ、公表しました。汚水処理人口普及率とは、建物から排出されるトイレ、厨房、風呂、洗濯等の排水及び事業用排水が適正に処理されている割合を人口比で表した指標です。適正処理ができる汚水処理施設には合併処理浄化槽、公共下水道、農業集落排水施設等、コミュニティプラントがあります。

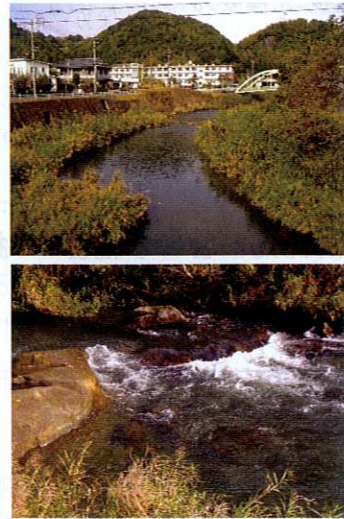
このため、地域の水環境を改善し水質保全を図るためには、この汚水処理人口普及率の向上、特に合併処理浄化槽の普及に大きな役割が期待されています。

① 全国の汚水処理人口普及率は 89%

全国の汚水処理人口普及率は、5年度の49%から25年度は89%へと40%向上しました。特に公共下水道が大きく伸びていますが、合併処理浄化槽はこの10年では微増の状況となっています。

	平成5年度	平成15年度	平成25年度
合併処理浄化槽	626万人(4%)	1,030万人(8%)	1,121万人(9%)
公共下水道	5,479万人(43%)	8,458万人(66%)	9,714万人(78%)
農業集落排水施設等	43万人	328万人(2%)	356万人(3%)
コミュニティプラント	48万人	38万人	25万人
計(処理人口)	6,196万人(49%)	9,854万人(78%)	11,216万人(89%)
未処理人口	6,373万人(50%)	2,828万人(22%)	1,403万人(11%)
総人口	12,569万人	12,682万人	12,619万人

※未処理人口：単独処理浄化槽、汲み取りトイレを使用している人口
※人口は四捨五入を行ったため、合計が合わないことがある。

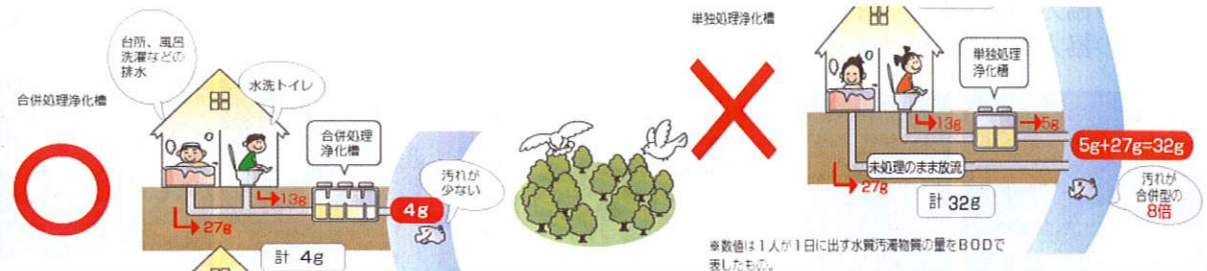


② 鹿児島県の汚水処理人口普及率は 75%

鹿児島県の汚水処理人口普及率は、5年度の30%から25年度は75%へと大幅に向上しました。特に合併処理浄化槽の普及率は大幅な伸びとなっています。これは県内市町村の多くが実施してきた補助事業（単独処理浄化槽や汲み取りトイレから合併処理浄化槽への切替えに対する上乗せ補助制度）の影響によるものと思われます。

	平成5年度	平成15年度	平成25年度
合併処理浄化槽	79千人(4%)	328千人(19%)	535千人(32%)
公共下水道	451千人(25%)	627千人(35%)	688千人(41%)
農業集落排水施設等	3千人	39千人(2%)	44千人(3%)
コミュニティプラント	4千人	3千人	5千人
計(処理人口)	537千人(30%)	997千人(56%)	1,271千人(75%)
未処理人口	1,258千人(70%)	773千人(44%)	418千人(25%)
総人口	1,795千人	1,770千人	1,689千人

※未処理人口：単独処理浄化槽、汲み取りトイレを使用している人口 ※人口は四捨五入を行ったため、合計が合わないことがある。



③ 鹿児島市の河川が昔に比べてキレイになりました！

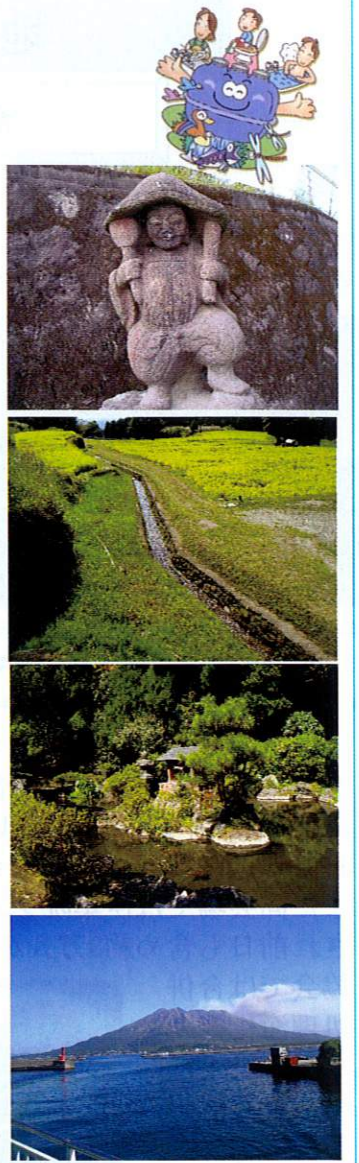
下表は鹿児島市が昔から定期的に測定している市内6河川の水質データです。昭和60年度に比べると水質の大幅な改善が図られ、現在はとてもキレイな川になりました。昭和60年当時は設置される浄化槽のほとんどが単独処理浄化槽のため、生活雑排水（台所、風呂、洗濯等の排水）は未処理で側溝や川に放流されていました。また公共下水道の普及率も現在よりかなり低い状況でした。

この状況を改善するため、鹿児島市は昭和63年度から合併処理浄化槽設置への補助制度を開始、平成元年度からは単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への切り替えに対する上乗せ補助制度の開始、20年度からは汲み取りトイレから合併処理浄化槽への切り替えに対する上乗せ補助制度の開始、など積極的に取り組んできました。

これらの取り組みと公共下水道の普及もあって汚水処理人口普及率は大幅に向上し、その結果河川は大幅にキレイになりました。 ※水質はBOD(mg/l)

河川名	測定地点	環境基準	昭和60年度	平成15年度	平成25年度
稲荷川	水車入口橋	2以下	8.0	2.5	1.6
甲突川	河頭大橋	2以下	1.6	0.8	1.0
新川	鶴ヶ崎第2橋	3以下	12.0	1.6	1.2
脇田川	南田橋	3以下	8.1	2.3	※①
永田川	新永田橋	3以下	3.3	3.4	3.3
和田川	潮見橋	3以下	17.0	1.5	0.9
汚水処理人口普及率			※②	86%	92%

※①河川工事等により採水なし ※②データなし



✿ 地域に伝わる珍しい祭事「権現堂祭・天道祭」～川上町内会

川上郷に昔から伝承されてきた珍しい祭事が26年10月19日、町内会、敬老会、有志の方々が多数参加して催されました。米、塩、スルメや焼酎などをお供えした後、宮司様による祝詞奏上と横笛奏上の中、全員で玉ぐしを奉納しました。この後公民館に移動してお供え物を食しながら、宮司様からこの祭事の由来、歴史、意義についてのお話があり、参加者一同は来年もよい年になることを願いました。

(天道祭)

川上小学校から北方向へ約2km行った高台に、先の尖った高さ約40cmの自然石が鎮座してあります。この自然石がご神体で、太陽即ちオテントウサマをお祀りするのが天道祭りです。

この場所は川上郷で最も高い位置にあり、北に牟礼丘（マッガン）、東に吉野原（ヨイノンハイ）、西に岡之原（オカンハイ）を見渡せます。太陽をお祀りする祭事は全国的に珍しいとのことでした。

(権現堂祭)

西本願寺川上出張所の横約50mのところ池の川（イケンコ）の遊水地があり、その上に祀られていた水神様を市水道局が水源地として整備した際に岩の上の祠に移設したのが現在の権現堂です。

まだ水道のない時代の池の川（イケンコ）は、子供や大人が大勢水汲みに集まる場所で、夏にはホテルが群舞し、子供たちは水遊びに興じました。

水源地となった今も、この水は川上町一帯に給水され、とてもおいしいと評判です。

